

第5次犬山市総合計画に関する市民意識調査 調査結果概要

調査内容

1 調査項目

本調査では以下の項目について質問しています。

- 1 回答者の属性
- 2 まちづくり指標の達成状況
- 3 市民の健康
- 4 市民の暮らし
- 5 まちの現状
- 6 行政
- 7 住みやすさ
- 8 犬山市の魅力
- 9 施策別の現状評価と重要度
 - ①施策別の満足度及び重要度
 - ②特に重要と思う施策
- 10 近年の社会情勢への対応
 - ①重要と思う施策
 - ②分野別の施策（災害、暮らしの利便性、産業振興、来訪者の増加、市民交流、子育て・教育・歴史・文化）

2 回収率

本調査の回収率は58.6%で、平成22年の56.4%と比較して回収率がやや向上しています。

3 回答者の属性

性別：男性が37.2%、女性が54.2%と、女性の方が多い傾向にあります。

年齢：60歳以上が52.4%と過半数を占めています。30歳未満は5.5%です。

地区：最も多いのが犬山地区の40.4%、次いで羽黒地区の20.8%、逆に最も少ないのが池野地区で1.7%となっています。

居住年数：30年以上が58.9%、10年以上を含めると全体の83.5%を占めています。

調査結果

1 まちづくりの達成指標 → いずれも前回より向上しています

■住みよさ指標

『今後も犬山市に住み続けたいと考える市民の割合』（問34）

67.7% ⇒ 86.0% ※H34年度目標値 90%

(H22年度)

(H28年度)

■まちづくり指標

①『犬山市は、安全・安心を実感し、心豊かに暮らせるまちだと思える市民の割合』（問1）

57.2% ⇒ 75.9% ※H34年度目標値 80%

(H22年度)

(H28年度)

②『地域でのつながり・支え合いを大切にしている市民の割合』（問2）

75.0% ⇒ 81.0% ※H34年度目標値 85%

(H22年度)

(H28年度)

③『犬山のまちに愛着を感じている市民の割合』（問3）

78.0% ⇒ 82.5% ※H34年度目標値 90%

(H22年度)

(H28年度)

2 市民の暮らし・住みやすさについて

市民の暮らしや住みやすさ（市民の健康、暮らし、まちの状況、行政の取り組み、住みやすさ、犬山市の魅力）についての質問の結果を、平成22年度数値と今回の数値の増減により整理しました。

【主な分析結果】

◆数値が向上しているもの

■市内の商店（店舗）で買い物をしている市民:58.0%→66.0%

■市内の商店街に魅力があると思っている市民:21.5%→28.1%

平成27年度まで実施していたプレミアム商品券の販売や、城下町を中心として特徴的な店舗が増えていることが、数値の上昇につながっているものと考えられます。しかしな

から、後述するように「商業地整備」に対する満足度は平成21年と比較して下がっており、日常的な買い物への不満は解消していないことがうかがわれます。

■**家庭で防災グッズ（非常持ち出し品）の備えをしている市民:21.5%→42.5%**

平成22年度の21.5%から2倍近い増加がみられました。東日本大震災、熊本地震、各地で起きるゲリラ豪雨など、かつてない自然災害が多く発生したことによる、防災に対する市民意識の高まりがうかがえます。

■**市内の駅周辺には活気があると思う市民:8.4%→14.9%**

観光客の増加による犬山駅周辺のにぎわいや、楽田駅が整備されたことなどにより数値が上昇していますが、依然として低い水準にあります。

◆数値が低下しているもの

■**健康であると思う市民：72.1%→68.8%**

後の問にあるように市民の運動機会は増えていますが、それにもかかわらず、健康であると思う市民の割合は低下しており、高齢化率の上昇にともない、健康に対して不安を感じる市民が増えていることがうかがえます。

■**市が実施したパブリックコメントや意見交換会などに参加（参画）した経験がある市民：6.5%→4.6%**

■**現在、市民活動（NPO・ボランティア活動など）を行っている市民：10.4%→8.7%**

■**清掃活動やお祭りなど、地域（町内会など）の活動に日頃から参加している市民：60.0%→58.2%**

「地域でのつながり、支え合いを大切にしている市民」の割合は増加しているにもかかわらず、市民活動、コミュニティ活動に積極的に参加する割合の低下傾向がみられ、実際の行動に結びついていないことがうかがえます。

■**「広報いぬやま」を読んでいる市民：89.0%→86.0%**

広報を読んでいる市民の割合は低下傾向にあります。後の問からは、広報以外にインターネットやテレビを通じて市の情報を得る市民の割合が大幅に増えていることがわかり、行政情報の伝達が多様化していることがうかがえます。

3 犬山市の住みやすさ → 前回よりも向上しています

■**「これからも住み続けたい」と「住み続けたいが、他の場所に移るかもしれない」の計：67.7%→86.0%**

【その理由】

（特徴的なもの）

「災害が少ない」42.6%→51.6%

「犯罪が少ない」13.1%→17.1%

(その他)

「緑が多い」「愛着がある」「地域の間人間関係がよい」

■「他の市町村へ移りたい」：8.2%→7.8%

【その理由】

(特徴的なもの)

「買い物や外食が不便」45.7%→58.2%

「公共交通の便が悪い」43.3%→49.5%

(その他)

「医療・福祉サービスが充実していない」「公共施設が充実していない」「愛着がない」

安全・安心に関する評価が上昇しており、「住み続けたい」人の割合が大きく上昇しています。「他の市に移りたい」人の割合は減少していますが、理由として生活利便性の低さを挙げる人が増えています。

3 市政に対する評価と今後の期待

①特に満足度が低い施策、特に重要度が高い施策について、平成21年度に行った調査と比較して数値の変動状況を整理しました。(次ページの図参照)

【満足度が低いもの】(グラフの左方に分布しているもの)

18 商業地整備(満足度は低下し、重要度は上昇)

41 駅周辺・市街地整備(満足度は低下し、重要度は上昇、特に重要度の上昇傾向が顕著)

45 バス利便性(満足度、重要度ともにほぼ変化なし)

【重要度が高いもの】(グラフの上方に分布しているもの)

2 地域医療・救急医療(満足度は若干上昇、重要度は大きく上昇)

8 健全財政(満足度は上昇、重要度は若干上昇)

32 防犯(満足度は若干低下、重要度は大きく低下)

33 防災(満足度は低下、重要度はやや上昇)

34 救急・救助(満足度、重要度ともにほぼ変化なし)

【地区別の比較】

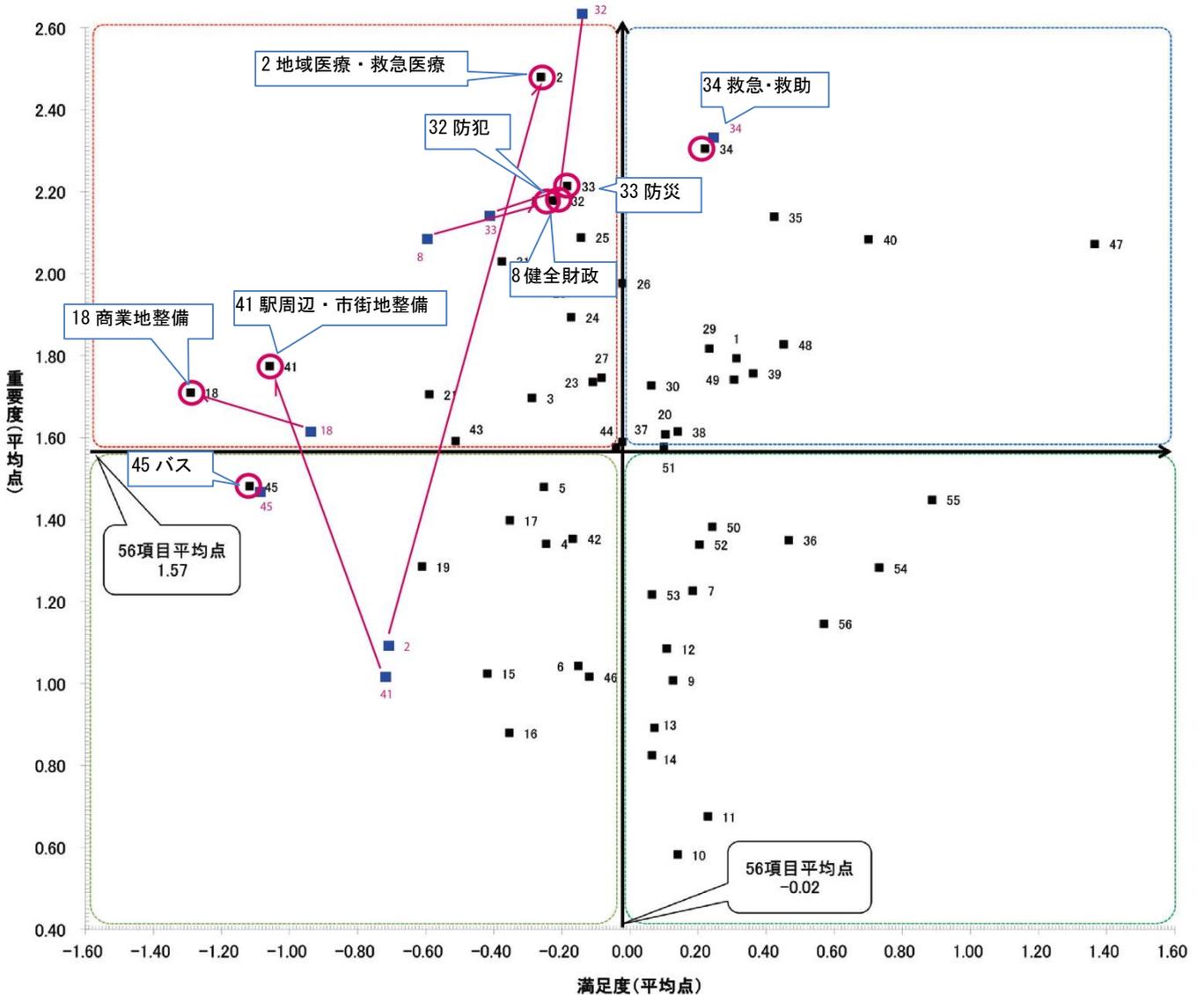
- ・各地区とも共通して満足度が低い施策として、18「魅力ある商業地整備」41「駅周辺・市街地整備」45「バス利便性」等が挙げられる。
- ・犬山地区：概ね全体と類似した傾向にある。
- ・城東地区：18「魅力ある商業地整備」の満足度が-1.64と著しく低い。

- 羽黒地区：城東地区と同様、18「魅力ある商業地整備」の満足度が-1.54と目立って低い。
- 楽田地区：43「道路・橋梁」の満足度が他地区と比較して低い。
- 池野地区：特に突出して満足度が低い施策がないかわりに、全体的に満足度が低い。他地区と異なり、5「公共施設の維持管理」31「交通安全」33「防災」37「公園整備」43「道路・橋梁」44「鉄道利便性」などが満足度が低いグループに属している。

【年代別の比較】

- 18～39歳：18「魅力ある商業地整備」41「駅周辺・市街地整備」が突出して満足度が低く、重要度が高い。
- 40～59歳：上記に加え45「バス利便性」31「交通安全」21「雇用環境」19「中小企業振興」の満足度の低さが目立つ。
- 60歳以上：満足度が低く、重要度が高い施策（グラフの左上の領域）が少ないのが特徴といえる。

図 満足度が低い・重要度が高い施策とH21年からの動き



②各施策のうち「特に重要と思うもの」(上位5項目)

【全体】

- ・「医療」「子育て」「駅周辺整備・市街地整備」が多く、「防災」「バス」「財政」「商業地整備」が続く。

【地区別の比較】

- ・各地区ともに共通して重視されている施策は「医療」「子育て」。
- ・犬山地区は「駅周辺整備」が他地区と比較して多い。
- ・城東地区は「バス」を重視する人の割合が多い。
- ・羽黒地区は「財政」が5番目に入っている。
- ・楽田地区は「道路・橋梁」の割合が高いことが特徴。
- ・池野地区は「義務教育」を重視する人の割合が他地区と比較して高い。

【世代別の比較】

- ・各世代共通する施策は「駅周辺整備」。また、比較的若い世代では「子育て」「保育」といった子育て世代のニーズ、一方高齢世代では「医療」「バス」「健全財政」「社会保障」など、暮らしの安心へのニーズが特徴といえます。

【男女別の比較】

- ・男女ともに共通して重視する施策は「医療」「子育て」「駅周辺」。
- ・それ以降は男性は「商業地整備」「健全財政」が上位に入り、女性は「防災」「バス」が続くなど、男女による違いがみられます。

4 近年の社会情勢に対応したまちづくりについて

①めざすべきまちの将来像

■今後めざすべきまちの将来像(上位5項目):

- 「移動の不自由がないまち」「安全・安心のまち」「歩いて暮らせるまち」「活気ある商店街や商業施設のあるまち」「子育て環境が充実したまち」
- ・高齢化が進むなか、移動の不安なく、歩いて日常の暮らしができるまちに対するニーズの大きさがうかがえ、安全・安心ともつながるまちづくりの課題といえます。
 - ・一方、買い物がしやすい、活気あるまちの姿も求められています。
 - ・地区別、年代別、男女別に比較すると、各地区とも上位5つの将来像に差異はなく、地区、年代に限らず将来像は概ね共通しています。

②大規模な災害に備える取り組みについて(上位5項目)

■「備蓄」「道路基盤整備」「情報伝達」「拠点整備」「支え合い」

- ・各地区とも大きな違いはなく、「各個人の備え」が低い以外、概ねどの施策も同程度重要とされていますが、楽田、池野地区では若干「道路整備」が高くなっています。
- ・備蓄機能も含めた災害拠点整備と、それをつなぐ道路基盤、また情報伝達、市民の支え合

いと、災害への備えは多様な要素からなっていることが市民に共有されています。

③ 日常の暮らしの利便性に関する取り組みについて

■日常の暮らしのための望ましい利便施設（上位3項目）

「医療、福祉、レクリエーション、商業」「犬山の特徴を活かした商業」「公共交通利用が便利な商業」

- ・複合的な機能を持つ拠点商業から移動販売まで多様な商業機能が求められています。また「今後めざすべき将来像」とも関わり、自動車に依存することなく買い物ができることが求められています。
- ・地区別にみると、各地区とも概ね共通していますが、楽田、池野地区では、「医療、福祉、レクリエーション、商業の複合施設」の支持率が他地区より若干高めになっています。また、鉄道駅からの距離がある池野地区では、「駐車場のある大規模な商業施設」の支持率も高くなっています。
- ・世代別では、若い世代で「郊外の大規模な商業施設」や「幹線道路沿いの商業施設」のニーズが高いのに対して、高齢世代では、「移動販売・宅配事業」や、「医療・福祉、レクリエーション、商業が集まった施設・場所」のニーズが高い傾向にあります。

④ 産業の振興に関する取り組みについて

■産業振興方策（上位3項目）

「犬山の特徴を活かしたブランド力向上」「生活に身近なサービス産業育成」「大規模商業誘致」

- ・各地区とも概ね共通していますが、池野地区では「農業活性化」の支持率が他地区より高く、「大規模商業誘致」「地域特性に合った商業誘致」が低くなっています。

⑤ 犬山市を訪れる人を増やすための取り組みについて

■来訪者増加、交流拡大の方策（上位3項目）

「主要な観光施設の回遊性強化」「歴史、文化、自然など犬山の特徴の活用」「駐車場確保や公共交通の利用促進」

- ・既存施設や犬山の特徴を活かした観光振興とともに、受け入れ体制の強化や情報発信の必要性が認識されています。

⑥ 市民の交流に関する取り組みについて

■市民交流拡大の方策（上位3項目）

「多様なテーマで集まれる場や機会」「移動手段の確保」「公共交通を利用しやすい場所での施設整備」

- ・多世代が多様なテーマで交流できる場や機会が求められていると同時に移動の手段の確保

による、利用しやすい拠点づくりも必要とされています。

- ・地域、男女による大きな差は特にみられませんが、若い世代では「多様なテーマで集まれる場や機会」のニーズが他より高くなっています。

⑨ 子育て・教育・歴史・文化等に関する取り組みについて

(1) 子育て支援について

■少子化対策（上位3項目）

「経済負担の軽減」「託児サービスの充実」「ワークライフバランス」

■子育て支援の環境整備：「複合施設の整備」（36.0%）、次いで「現在の施設の維持、修繕」（25.5%）「子育て支援センターの新設、統廃合」（16.0%）

- ・若い世代では少子化対策として「経済負担の軽減」のニーズが他より高くなっています。

(2) 市内の小中学校について

■学校で子どもに身につけさせる力（上位3項目）

「思いやり」「コミュニケーション力」「表現力」

■学校教育の中で優先すべき取り組み

「道徳教育」の充実を求める声が圧倒的に多くなっています。

- ・女性は男性と比較して「コミュニケーション力」「思いやり」を重視している傾向にあります。世代間では、若い層での「外国語教育」、高齢層での「道徳」の高さが特徴となっています。

(3) 生涯学習について

■生涯学習の振興策：「福祉部門と連携した高齢者の生涯学習」（20.6%）「講座の内容充実」（19.7%）「講座情報提供の充実」（18.3%）

■スポーツの振興策：最も多いのが「幅広い世代が参加できる多様な事業」（51.5%）で過半数を占めています。

- ・地域、男女で大きな差異はありませんが、若い世代では「スポーツを通じた誘客」に対する支持が他の世代より高い傾向にあります。

(4) 歴史的遺産や伝統文化について

■地域の宝となる文化財とされたもの（上位5項目）

「犬山城」「犬山祭など伝統的な祭」「鶺鴒などの伝統的慣習」「歴史的街並みや里山の景観」「木曾川、五条川などの河川空間」

■地域の宝の保存・活用のための取り組み：

「市民が文化財に触れる機会充実」で32.6%を占めています。次いで「継承する人材

育成」の26.0%、「文化財の指定・登録の推進」が13.1%となっています。

- 世代、男女で大きな差異はありません。